

Q1：小説を書く人が何をきっかけにしているかを解説してほしい。

A1：【堺先生】 経済小説の作家に関して言いますと、仕事上の経験や知識が「きっかけ」になるケースが一番多いように思います。また、取材や調査などを通して得た知識をベースに、記者が小説家になるケースもありますね。

Q2：海外のおすすめ小説は？

A2：【堺先生】 かなり古いですが、お薦めの作家を一人挙げるとしますと、アーサー・ヘイリーでしょうか。綿密な取材にもとづいて業界の内幕を描ききった作品をたくさん残した作家として知られています。

Q3：誠実な仕事をしたいが時間が足りない。やっても上司には認められず同僚には迷惑がられる。こんな状況に勧める小説を。

A3：【堺先生】 朝比奈あすか『天使はここに』もしくは平安寿子『こっちへお入り』が参考になるのでは。大切なことは、気持ちの持ち方だからです。前者は、他人がどう思うのかはともかくとして、自分の課題を決め、誠実に働くことこそが自分にとっては大事なことであることを気づかせてくれます。また、きちんとした仕事ぶりは、必ずだれかが評価してくれます。ただし、周りの人にもその考え・行動を押しつけることは慎んだほうが良いでしょう。人の考えはそれぞれですし、それぞれに良さがあるものです。後者は、落語に熱中する女性の話です。このようなプライベートの充実もまた仕事を円滑に進めていくうえで大切なことです。そこでは、仕事上の判断基準とは異なった世界が広がっているからでもあります。

Q4：『農ガール、農ライフ』をもう少し詳しく話してください

QA：【堺先生】 仕事も彼氏も住む場所も失った 32 歳の主人公の女性が、偶然見たテレビ番組から農業に従事することを決める話です。簡単には参入できない世界なのですが、徐々に生活できる道を切り開いていくプロセスに、ハラハラドキドキを感じることでしょう。

Q5：『書店ガール』を書き始めた時、どんなものに気を付けたか

A5：【碧野先生】 書店員の人を読まれて、これはありえないよ、と思われないように、仕事の部分ができるべくリアルに感じられるように、ということを考えました。取材もしましたし、書店員対象の専門書を読み、坪単価いくらくらいで、売り上げ金額はどれくらい、ということも計算して決めました。

Q6：夫の転勤、子育ての後、仕事はあるのか、できるのか不安。『女たちのジハード』を読むつもりだが、他にあれば助言を

A6：【堺先生】 「仕事はあるのか」「できるのか」という不安は、よくわかるのですが、

いまから漠然と考えていても意味があるとは思えません。ただ、「仕事につなげるための準備」は、しっかりとやっておくべきだと思います。複数の可能性があるのであれば、しっかりとメモを取っておくなり、ノートに記録しておきましょう。書いて考えることもまた、そうした準備のひとつになります。と同時に、思う存分いまを楽しんでほしいですね。楽しい経験こそが、未来の開拓につながっていきます。なんととっても、「あなたは自分の人生の主人公」なのです。主人公はいつも大変なのですが、それは、自分の将来を自分で選んでいけるからなのです。

【碧野先生】 いまの時代、子育てで中断したとしても、何かの仕事はみつかると思います。主婦を経験したからこそできることもありますし、専業主婦をしている間になんらかの資格を取ったり、やりたいと思う方向にアンテナを張っていれば、何か道は開けるでしょう。金銭的に不自由していなければ、最初はボランティア的なことでもいいですし、何か動いていけば人と繋がります。独身時代とまったく同じ仕事というのはなかなか難しいかもしれませんが、あせらず、他人と比べず、自分らしい働き方を探してください。

Q7：5年後、10年後の自分のビジョンが見えず不安。何を考えていけばよいか助言を。

A7：【堺先生】 ビジョンを掲げるのは、とても大切なことです。組織の場合は、いまや不可欠なことだと思います。しかし、個人レベルではどうでしょうか？ 5年後、10年後のビジョンを掲げる人は、ほとんどいないと思いますが、大きな夢・目標を書いてみるのはあり得ますね。ただ、それだけでは、不発弾のまま終わってしまう可能性が出てきます。それに実行力を持たせるためには、もう一つの作業とワンセットで行うことが必要ではないでしょうか。それは、個人レベルで一週間、一か月、1年間にやるべきことを書き留めておくことです。いずれの場合でも、やるべき課題や目標を、ポイントに分けて、書き留めていってください。そして、クリアすべき課題や困難な点も付記しておくといいでしょう。ある程度時間が経過したら、再度それを見直し、現実に合わせて修正してみましょう。そうしたことを実践していくなかで、行動・考えの軸が少しずつ作られていきます。それらの記録をけっして廃棄しないで、何年か後に再度まとめてみると良いでしょう。そのときに初めて、あなた自身の中で、過去・現在・未来が結びつけられることとなります。

【碧野先生】 私自身も、ビジョンがあるかといえば難しいです。こういう時代なので、先が見えずに不安に思う気持ちもわかります。でも、だからこそ目の前の仕事をひとつずつ丁寧にこなすことかな、と思っています。いまの自分の仕事を大事にしていけば、だんだんスキルアップしてできることが増えていきますし、そうすればおのずと選択肢も広まるだろうと思います。

Q8：(堺先生へ) 企業活性化、アイデア出しの実例を話してほしい。その時にマイナスのことしか言わないメンバーにはどう対処したらよいか

A8：【堺先生】 活性化の手法、アイデアの出し方には、①「問題改善型」(→不便な点、

グチ、クレームなど、すべてを改善の素材として考えてみる)、②「逆転の発想型」(→「常識」「当たり前」を疑ってみたり、真逆の考えをすることで、新たな方向を模索する)、③「コラボレーション型」(→自分「一人で」「自分のグループだけで」「自分の会社だけで」やろうとしないで、コラボレーションの道を探る)の三つがあります。例えば、本屋を舞台にして具体例を挙げてみますと、①陳列方法や POP に工夫を凝らすこと、②総合的な品ぞろえをやめて、特定のテーマに特化した業態をめざすことや、「移動する本屋さん」といった事例、③スーパーやホームセンターなど、業態が異なるところに本屋の併設することなどが考えられます。皆さんの勤めている勤務先についても同じように考えていけば、たくさんの改善策を見出すことができるでしょう。次に、「マイナスのことしか言わないメンバー」についてですが、そうした反応はごく当たり前の現象だと考えるべきです。どのように対応するのかについては、企業や組織の活性化を扱った多くの経済小説・お仕事小説で触れられています。まさにケースバイケースだと言わざるを得ません。ただ、私自身は、だれが、なぜ、どのような反論・反対をするのかをきちんとまとめて、それぞれに対して自分自身の考えを Q&A 形式にまとめておくという作業は不可欠だと考えております。

Q9：今 40 歳、会社に 10 年。60 歳まで働くコツを教えてください。

A9：【堺先生】 60 歳まで働くには、プライベートの充実はもちろんですが、やはり仕事そのものにも喜びを見出せるように努めることではないでしょうか。私見を言えば、課題を見つけ、工夫を凝らしてそれをクリアしていくことは、つらい面があるものの、大変楽しいことです。つまり、楽しく仕事に取り組んでいくという姿勢が大切だと考えています。ただ、40 歳の頃はまだ、どことなく自信を持ってないで生活していたように思います。しかし、いろいろな本を読んで、人間がなぜ生まれ、死んでいくのかというメカニズムを自分なりに理解しえたとき、あとで振り返ると、考えの軸、生きていくための軸ができたように思います。そのあとは、生きていくことのすばらしさをできるだけ多くの学生たちに伝えていくということが私のミッションになり、講義やゼミも、楽しいひと時変わったように思います。それ以外にも、仕事のつらさを忘れさせてくれたり、リラックスさせてくれたりする趣味があったことも大きな要素だと確信しております。

【碧野先生】 まずは健康であること。周囲の人たちといい関係を築くこと。いまやっている仕事を大事にし、少しずつでも進歩していくこと、といったことでしょうか。

Q10：子供を産んでも戻れる職場、子育てを頼れる環境作りのために、自分にできることは何かと考えている。お二人の考えを聞きたい。

A10：【堺先生】 子育てと仕事の両立は大変なことです。お仕事小説にも、そうした困難性を具体的に描写した作品があります。なぜ難しいのか、なぜ理解されないのか、どうすればよいのかなどを考える際、参考になるのではないのでしょうか。困難な職場が多いかもしれませんが、両立が可能な職場も少なくありません。そうした職場の現状を知るなかで、やる

べきこと、やれることの仕分けができるのではないのでしょうか。

【碧野先生】 もしご自分も子どもを持って働いているなら、同じ境遇の人と繋がり、どうしたらよりよくなるか、ともに考え、助け合うこと。必要であれば、会社にも意見を出されるといいと思います。そうでないということであれば、とりあえずは政治に関心を持ってください。仕事の環境はその時の政治に強く影響を受けます。現在も保育園不足、保育士不足が言われていますが、そこにほとんど税金が投入されていません。そうしたことに理解のある政治家に投票することが実は現実的な一歩になると思います。

Q11：2000 年ごろから使われるようになった「お仕事小説」、内容はこの 20 年間に変わってきたのか

A11：【堺先生】 20 年間の変化として指摘できるのは、第一に、作家も扱われている職種・業界も急増したこと、第二に、女性の作家も主人公も増加したこと、第三に、プライベートと仕事との関係を扱うという作品が増加していること、第四に、ごく普通の人物が主人公になる場合が増えていることなどです。

Q12：不況期以降、女性が仕事を求めて海外に行くことが多かったと思う。文学ではどのように描かれてきたか。

A12：【堺先生】 海外でも就職活動をする「世界就職」（略して「セカ就」）という言葉があります。そして、2013 年に出版された、森山たつをさんの『セカ就！』という本のなかで、そうした現象が紹介されています。ただ、お仕事小説の分野では、まだそうしたテーマを扱った作品には遭遇していません。

Q13：（堺先生へ）お話の最後に「三つの手法」があった。具体的な事例を、できれば卒業生のケースで

A13：【堺先生】 「三つの手法」を実際の仕事・業務に絡めてどのように活用すれば良いのかについては、すでに質問票通し番号 10 でお答えいたしました。「できれば卒業生のケースで」というのがどのようなことを念頭に置かれておられるのかがよくわかりませんので、以下は私の推測のご質問と回答ということになります。ご容赦ください。もし、学校を卒業して特定の組織などで働いておられる場合は、運営面・経営面での改善にそのまま応用できます。また、個人の能力開発ということでしたら、「企画力」のパワーアップにつなげていけます。さらに、個人の趣味や特技を鍛えるような場合でも、現状を認識し、課題を浮き彫りにし、それをどのように改善やパワーアップにつなげていけるのかという考えるときに、三つの手法が役に立つものと考えています。

Q14：（堺先生へ）年に何冊の本を読みますか

A14：【堺先生】 1983 年から現在までに読んだ経済小説は、1300 冊ぐらいになります。

1日に3冊読んだ日もありましたし、百冊以上読んだ年もありましたが、それらは例外的です。研究や授業の準備のために読む本などを除けば、一年間ではおおむね数十冊が平均的ではないでしょうか。

Q15：書店ガールがドラマ化されたときの周囲の反応、よかったこと、悪かったこと。

A15：【碧野先生】 決定する一年以上前から話はちらほらあったので、決まってほっとしたというのが正直な気持ちでした。周りもたいへん喜んでくれましたし、ドラマ化のおかげで私のことを知らない人でも「あのドラマの原作者」と言えばわかってもらえるようになったので、とてもありがたいです。また、ドラマの撮影に参加したりしたのも楽しかったです。悪かったこととしては、視聴率が残念ながら振るわなかったこと。スタッフやキャストの皆さんも頑張ってくださっていたし、内容的にもそんなに悪いものではないはずなのに、とても残念でした。